

敷地内禁煙



岡崎市民病院長
平林 憲之 氏

岡崎市民病院では二〇〇七年五月三十一日の世界禁煙デーをもって敷地内全面的禁煙に踏み切ります。タバコの健康被害については改めて言うまでもありませんが、吸っている本人のほかにもその周辺の人に被害（受動喫煙）を及ぼすことがその理由です。健康を守るべき病院がその害毒を放置しておいてよいはずはありません。健康増進法第二十五条が、公共の場での受動喫煙を制限しているのはそのためです。特に、若い時期の喫煙や受動喫煙が将来の発ガンや循環器系疾患の発生と大きく関連しています。

このことを考えると、若い人を集める教育機関でこそ全面的な禁煙が行われるべきです。中学生などの喫煙が社会問題化しています。これは深刻ではありますが、一部の人の間

題であり、職員の喫煙が周囲の喫煙していない大多数の若い人に受動喫煙を促している事実を目を閉じてはいけません。

このように論じると必ず喫煙者の権利を主張する人が出てきます。しかし、タバコの害を承知で喫煙している人も、他人の健康を害する権利はないはずです。そして、私たちは喫煙者を憎んでいるのではなく、タバコの害そのものを敵視しているのです。

喫煙者はニコチン中毒という病気です。病気だからニコチン中毒は治療可能であり、治療されなければなりません。子供のいる家庭は、禁煙の場であるべきです。愛するわが子に害毒のあるタバコの煙を吸わせる親は、もはや病気というほかはないでしょう。

私たちはこの世からタバコをなくしてしまおうとは考えていませんが、少なくともタバコの煙のない社会を作りたいと考えているのです。数十年先の日本人の健康を考えれば、最も有意義な行動だと考えられるのです。

(ひらばやし のりゆき)



教育随想



月報
岡崎の教育

平成19年3月1日

3月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎市民病院長 平林 憲之氏	
この人に聞く	2
インドネシア観光親善大使 藤田 祥子氏	
羅針盤	2
道徳指導員 清水 良隆	
ふれあい	3
上地 小 柴田亜由美	
1年のあゆみ	4
平成18年度研究発表校・出版物	6
平成18年度教育研究論文入賞者	7
お知らせ	8
フォト・ヒストリー	10
卒業写真(明治40年)	
この本を	10



インドネシアとの架け橋に

インドネシア観光親善大使

藤田 祥子 氏

「温かな国民性と、暮らす人たちの穏やかな笑顔が素敵な国なんです。高級感あふれるビーチリゾートのヌサドゥアや、まるで映画の一場面を思わせるような雄大な景色が広がるウブドゥ。そんなインドネシアの魅力をもっと多くの日本人たちに知ってもらいたいと思っています。」

インドネシア観光親善大使を務める藤田さんは、そう語った。

彼女が大使を務めることになったのは、ミスユニバースジャパンへの応募がきっかけだった。

「少しでも人の役に立てるような



道に進むことがわたしの夢です。美しさを競うだけではなく、入賞者はボランティアやチャリティーにも取り組んでいるのを知って、応募しました。」

二〇〇六年のミスユニバースジャパン三位となったことが、日本でただ一人のインドネシア観光親善大使の仕事へとつながったのだそうだ。

「インドネシアのすばらしさを体感し伝えるのが主な役目です。多くの場所を視察するという現地での仕事はとにかくハードです。さらに、現地に着いた瞬間から報道陣に取り囲まれ、気を抜く時がありません。体力には結構自信があるんですけど、睡眠時間も少なくて大変です。体調管理には特に気をつけています」と語る藤田さんは、一八二センチと恵まれた体格。美川中学時代から始めたハンドボールで、インターハイ全

国一位となった経歴の持ち主である。「インドネシアの魅力はどう伝えるか模索中なのですが、とにかく自分のできることを少しずつでも続けていくことが大切だと思っています」と、視察したことや日々の感想などを、インターネット上のブログに頻繁に掲載している。

「地震で被害の大きかったジョグジャカルタを訪れた時、皇女と話をする機会に恵まれました。被災した市民のために自ら行動する彼女のボランティア精神に感動しました。」

コンテストへの応募から手に入れたチャンス。その中で人との出会いを通して「人の役に立ちたい」という生きる方向性がさらにはっきりとしたようだ。

最後に、ご自身の経験をもとに子供たちにこんなエールをいただきたい。「毎日、目標に向かって頑張ること。その努力は自分を裏切りません。小中学生の皆さんには目標を持ってもらいたいと思います。できないことでも毎日続けていけば、必ずいつかできる日が来ます。」

ミスユニバース、観光親善大使と一見派手に思われそうだが、日本とインドネシアとを結ぶ架け橋として今後も藤田さんの地道な活動は続く。

氏名 ふじた さちこ
生年月日 昭和五十五年八月五日
住所 東京都在住



命を育む

道徳指導員 清水 良隆

「『ぼく』から手紙が届いています」という先生の言葉に、二年生の子供たちは身を乗り出した。「ぼく」は、これまでもこの学級に時々贈り物を届け、子供たちに親しまれる存在となっている。目の前に配られた封筒の中の手紙を、読みたくて仕方がない子供たち。その気持ちを生かし「まず黄色の手紙だけ出して」と指示が出る。急いで封筒をのぞき込む。「あつたぞ」と教室のあちこちでつぶやく声、輝く目。

手紙を読み始める。主人公の「ぼく」が捨て猫を拾った話だ。「首根っこをつかまえるって分かるかな」「手の平ほどってどれくらい」と具体的に確かめる。ポイントとなる言葉を巧みにおさえることで、子供たちが資料の世界に引き込まれていく。ピントの手紙を開く。「お母さんに世



花を鉢にも心にも

上地小 柴田亜由美

四月。ぴかぴかの一年生の子供たち三十名と出会った。その中にA男がいた。

A男は、自分の気持ちがあるまま行動に出る子だった。やりたくないことは、やらない。興味があることにはのめり込む。一文字一文字手を添えてA男の名前の読み書きを教えると、喜んでノートにぎっしり書き続けた。しかし、自分の名前以外は覚えられないまま、一学期が過ぎた。

A男は身の回りの物を片付けたり、持ち物を準備したりすることがなかなかできず、友達の手を借りることが多い。朝も起きられずに遅刻をすることもあった。そんなA男には自立への基礎を培う生活科の学習が重要であると感じた。

二学期「あきとなかよし」の単元で、虫つかみを生き生きと行うA男。

「どこにいたの」「すごいね」「どうやって捕まえたの」と友達に聞かれて「こっち、こっち」と得意になって教えていた。休み時間も虫つかみに明け暮れた。しかし、捕まえて喜んで飼育ケースに入れるものの、その後の世話がなかなかできずにいた。「虫さん、こうやって捕まえられて、えさもらえなくて死んじゃうのは、かわいそうじゃない」と問いかけると、「うん、えさをあげる。ぼく、頑張るよ」と、少しずつ態度が変わっていった。それでも、多くの虫が命を絶つたのだが、虫とのかかわりで「世話をされるA男」から「世話をするA男」へと、わずかな成長を見せていった。

十一月、アサガオを育てた鉢に自分の好きな球根を植えて育てることにした。虫と違って育てやすい球根の世話をA男に続けさせることで、成就感を持たせたいと考えた。その際、一つの球根はペットボトルを使って教室で水栽培し、根が生え、芽が伸びていく植物の命を実感させたいと願った。しかし、球根を植える日、A男は家から球根もペットボトルも持ってきてなかった。そんな時のために余分に用意しておいた球根を渡そうか迷っていると、「A男君、ぼくのチューリップの球根をあげるよ。ぼくはたくさん持ってきたから」と、すぐ後ろのB男が声をかけた。する



とA男は、「ぼくね、チューリップの球根を買っておいてとお母さんに頼んでおいたんだ。明日持ってくるから大丈夫」と答を返した。自分から家族に頼んで、球根を用意していたのだ。この一言を聞いて、これまでも、自分で持ち物が準備できず、友達に頼ってばかりいたA男の成長を感じた。

翌日、皆より一日遅れて、球根の栽培が始まった。毎日、球根を見て世話をするA男の姿をうれしく感じる。A男は覚えてたのの平仮名で、「めがでてきたからうれしい。きゅうこんさんうれしいよ」と書いた。三月には、きれいなチューリップの花を咲かせてくれることを願っている。A男の鉢にも心にも。

話ができるか聞かれ、力強く「うん」と言ったときの気持ち」を問いかけながら、実際に「うん」と言わせてみる。簡単な動作化が「ぼく」の心情に触れさせるきっかけとなる。

青の手紙。範読のトーンが変わる。「ひざの上で冷たくなっていました。ふかふかする毛をなでても……」と、心にしみ入る声にしんとする教室。「ぼく」はどんな気持ちだろう」と静かに問いかける。「かわいそう」「もう遊べない」「心が一人ぼっち」「二度と会えない」など、発言が続く中、男の子が一人涙をぬぐった。そして終末。「実は『ぼく』は先生なんです」と告げる。資料は先生の実験を綴ったものであった。

「人は死んでも生き返ることがある」と考える子供が三分の一もいる実態を知り、命を主題に単元を組んだ中の一時間。「命はたった一つのもの」という先生の願いは、多くの子供の命への思いを目覚めさせた。

今年度、命を取り上げた授業が大変多かった。出産の映像やその緒を見せた先生もいた。子供たちは食い入るように見つめ、ワークシートに黙々と鉛筆を走らせた。先生たち一人一人の熱い思いが、子供たちに命を考えさせている。

平成18年度研究発表校

月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料
9月29日	岩津小(自主)	国算・社理・生・特別支援	自ら学び、ともに追究し、高め合う子の育成 ーコミュニケーション能力を生かすことを通してー	『心の通い合う学級づくり』を基盤とし、周りの人や物事と主体的にかかわりながら学ぶ子供の育成を目指した。エンカウンターやソーシャルスキルの実践<ふれあい活動>、スピーチやふりかえり活動<個に応じた支援>、小集団の活動を重視した授業<協同的な学習>、聾学校との交流<広がる活動>により、コミュニケーション能力の向上と活性化に取り組んだ。	研究物 研究要項 学習指導案集 分科会助言者 愛知教育大学教授 土屋 武志 先生 愛知教育大学教授 都築 繁幸 先生 西三河教育事務所指導主事 蜂須賀 渉 先生 岐阜県瑞浪市立陶中学校 金津 琢哉 先生 (前奈良女子大附属小学校教官)
10月13日	大門小(市)	全教科・特別支援	生き生きと主体的に学び合う子どもの育成 ー学校評価システムをデザインするー	大門子ども未来プロジェクトの中で示した、目指す子どもの姿に迫るためには、学校評価システムを再構築し、新たな教育活動を創りあげていくことが大切と考え、実践に取り組んだ。内部・外部の評価活動を生かした学校経営や学級経営、子どもに寄り添った授業づくりや生活改善支援は、一人ひとりの育ちを支えるだけでなく学校改善・改革につながるものとなった。	研究物 研究紀要 学習指導案集 助言者 愛知県教育委員会教育企画室主査 岡田 豊 先生 田原市教育委員会指導主事 山本 克仁 先生 蒲郡市立塩津中学校教頭 壁谷 幹朗 先生
10月31日	六ツ美南部小(市)	国算・社理・生・特別支援	学ぶ喜びを育む授業 ー見つけ、磨き合う力の向上を目指してー	岡崎市教育委員会より、「確かな学力と学ぶ喜び」についての委嘱(平成16・17・18年度)を受け、「見つけ、磨き合う授業づくり」と「授業を支える学びの基盤づくり」を柱としながら研究を深めた。そして、「教材開発、単元構想の工夫」、「『見つけ、磨き合う』段階ごとの指導(教師のしかけ)の工夫」、「子どもの『学ぶ技』の向上」、「家庭学習習慣の向上」を具体的な手だてとして、実践を進めた。	研究物 研究紀要 学習指導案集 講師 愛知教育大学非常勤講師 前田 勝洋 先生 岡崎市立岩津中学校校長 野々山宏司 先生 刈谷市立衣浦小学校教頭 林 知子 先生
11月17日	常磐小(県赤十字)	生・特活・総合・特別支援	感性豊かな子を育む ー気づきを重視した子供主体の活動を通してー	平成17年度より、青少年赤十字活動の研究委嘱を受け、感性豊かな子を育もうと研究に取り組んだ。感性豊かな子の姿を「機微を感じ取る」「献身的に行動する」「向上心を抱く」と捉えた上で、子どもの気づきを重視し、活動計画の中に『期待する気づき』を位置づけることで、子どもに豊かな感受性と思いやりの心を育てる活動を展開した。	研究物 研究紀要 学習指導案集 講師 日本赤十字社愛知県支部指導講師 石川 貢 先生 梅園小学校教頭 石川 昌幸 先生 刈谷東中学校教務主任 長坂 富夫 先生
11月22日	城北中(市)	全教科・特別支援	創意と活力に満ちた信頼される学校づくり ー家庭・地域と連携し、学びを高める城北教育ー	生徒を取り巻く状況は様々な問題を抱えている。保護者の思いが不安から不満、そして不信へと変わらぬような地域から信頼される学校を目指す。そのために、学校・家庭・地域が相互連携を図る「共創的教育」を推進する。さらに、確かな学力の推進、豊かな心の育成、家庭・地域との連携の3つに視点を置き、よき伝統を生かしながら、城北教育の更なる充実を試みた。	研究物 研究紀要 学習指導案集 岡崎スタンダード<城北版> 学校づくりの話第八 講師 鳴門教育大学教授 西村 公孝 先生 奈良文化女子短期大学教授 善野八千子 先生 刈谷市立小高原小学校校長 太田 武司 先生 豊田市立足助中学校校長 藤澤 卓美 先生

書名	出版日	著者
授業をデザインする「技」	平成18年5月 ぎょうせい	愛知教育大学助教授 久野弘幸著 執筆協力者 広幡小学校教諭 山中一己
理科「発展的な学習」展開例集<小学校版>・<中学校版>	平成18年10月	岡崎市現職研修委員会理科部
学校づくりの話	平成18年11月	岡崎市立城北中学校 現職研修委員会
Stop The いじめ!ーいじめ撲滅を目指してー	平成18年11月	岡崎市教育委員会
子どもが活躍! 算数授業創造のネタ30選	平成18年12月 明治図書	西三河教育事務所 蜂須賀 渉 著
食育ー学校でつくる食生活の基礎・基本 第2巻 今必要な食育プログラムと教材開発	平成19年1月	岐阜大学教授 北俊夫編 執筆協力者 梅園小学校教諭 杉田吉男・中村郁夫
岡崎スタンダード	平成19年3月	岡崎市教育課程研究委員会
開校30周年記念誌	平成19年3月	竜美丘小学校 開校30周年記念事業実行委員会
いじめ・不登校対策事例集	平成19年3月	岡崎市いじめ・不登校対策委員会
合本「子ども岡崎風土記」『文集おかざき』	平成19年3月	岡崎市現職研修委員会国語部
初任者ガイドブック	平成19年3月	岡崎市教育委員会

●平成18年度の出版物

平成18年度教育研究論文入賞者

●個人研究の部

最優秀賞

Table with 4 columns: 氏名, 学校名, 教科領域, 研究主題. Rows include 片桐 徹 (北野 社会), 近藤 克幸 (額田 技術・家庭).

<論文入賞者数>

Summary table of award counts by school level (小学校, 中学校) and award type (個人, 共同).

優秀賞

Large table listing award winners with columns for name, school, subject, and research topic. Includes names like 近藤志づ代, 林 尚子, etc.

佳作

Large table listing award winners with columns for name, school, subject, and research topic. Includes names like 太田 好乃, 朝倉 智子, etc.

●共同研究の部

最優秀賞

Table listing joint research award winners with columns for name, school, subject, and research topic. Includes 5年生部会 and 豊かな心の育成部会.

優秀賞

Table listing award winners with columns for name, school, subject, and research topic. Includes 国語授業研究部 and 加藤 寛之.

佳作

Table listing award winners with columns for name, school, subject, and research topic. Includes モジューン部 and 柴田ゆかり.

お知らせ



● 教育最新情報

特別支援教育の新たな取組

平成十九年四月、「学校教育法等の一部を改正する法律」が施行され、小中学校に関して左記の二点が改正になる。

① 特殊学級の名称を「特別支援学級」に変更する。

② 小中学校において、学習障害 (LD)・注意欠陥多動性障害 (ADHD) などを含む障害のある児童生徒に対して適切な教育を行う。

岡崎市では、教育委員会、小中学校校長会、そして、昨年度より発足した特別支援教育連携協議会が中心となり、以下のことを推進している。

● 障害のある子供たちに対して、効果のある対応策を検討する特別支援教育連携協議会を設置

関係する機関 (医療・福祉・行政・労働・教育等) が、独自に持つ支援策などの情報を交換し、より具体的に、より効果のある対応策を検討し、「個別の支援計画 (試案)」を作成した。これにより、関係機関の連携がよりスムーズになり、教育現場の指導において、専門的で具体的な対応策が取れることが期待される。

● 全小中学校に特別支援教育コーディネーターを配置

特別支援教育コーディネーターは、各小中学校における関係機関等との調整を図る立場である。保護者からの相談窓口だけでなく、校内における支援体制の整備を牽引することがその役目である。

● 全小中学校に校内支援委員会を設置

校内支援委員会は、LD・

ADHD・高機能自閉症等の子供をより深く理解し、適切な支援の仕方を検討するチームである。これにより、一人の学級担任だけでなく、全校体制で支援をすることが可能になる。

● 特別支援教育Q&Aを作成

特別支援教育研修会で具体的な対応事例を収集し、事例集としてQ&Aを作成した。ケース個々への対応は、実践の積み重ねで対処していくことが大切であると考え。このQ&Aを参考に個々の教員がより自己研鑽に努められることを望んでいる。

● そよかぜ相談室は、発達障害等のある子供をサポート

岡崎市では、「そよかぜ相談室」で発達障害の相談に応じている。「そよかぜ相談室」は、これまで主に就学に関する相談を行ってきた。さらに、就学後の支援についても専門的な立場からサポートしていく。

◎ そよかぜ相談室 (要予約)

・ 場所：教育研究所
・ 連絡先 ☎ 二三〇四一六
・ 時間：午前九時～午後五時

● 海外研修報告

第五回岡崎市教員海外研修として、九月二十五日より十月五日までの十一日間、三名でフランス・イタリアの二か国を訪問した。研修テーマを「家庭や地域の信頼に込め、人々との絆を育む学校経営」とし、教育委員会を含め、幼稚園・初等中学校九校を視察した。

○ フランス教育の特色

フランスは、多民族・多言語社会であることから、「一斉授業」という学級全員が同じ学習課題を同じ学習ペースで指導していく指導方法をとりにくい社会である。そのため、特設学級を設けて「取り出し指導」や、複数の教員がチームを組んで、TTによる指導を行っていた。学級の規模も二十人前後が多く、日本に比べると少人数指導が充実している。視察訪問したオウヴェーデューボルゾー小学校では、「異年齢学級」「体験学習」「複数担任制」による教育を推進していた。

○ イタリア教育の特色

教育改革によって、学校のあり方そのものが見直され、学校教育において、子供の個性・人間関係などを統合的に発達させる教育を目指すようになり、子供の生活を題材にした学習指導や個性的な教育が行われていた。教科的な内容については、八十五パーセントは国が指導した共通の内容、残りは学校裁量で、地域や家庭から要請を受けて学校が独自に内容を精選している。また、障害のある児童生徒が、通常学級で教育を受け「統合教育」が導入されており、障害児は健常児の行動を学んでいた。



城北中 山本照司
大樹寺小 福田忠大
亀海中 小川恵子

▲ オウヴェーデューボルゾー小学校

●表 彰

◆NHK全国俳句大会

大賞 竜海中三年 廣本大貴
「春風が 砂巻き上げて ホームイン」
秀作 竜海中三年 内田千尋

◆第八回ジュニア発明展

最優秀賞 竜美丘小六年 山本颯太

◆日本郵政公社主催

第三十九回手紙作文コンクール

●総務大臣特別賞

甲山中二年 鈴木 達三

●優秀プロジェクト校受賞

六ツ美西部小学校

◆法務省主催第五十六回「社会を

明るくする運動」作文コンテスト

優秀賞 常磐中二年 中根貴和

◆愛知県アンサンブルコンテスト

クラリネット八重奏 金賞 竜海中学校

クラリネット四重奏 金賞 岩津中学校

クラリネット四重奏 金賞 竜美丘小学校

サクソフォーン四重奏 銀賞 岩津中学校

フルート三重奏 金賞 竜美丘小学校

サクソフォーン四重奏 銀賞 竜美丘小学校

金管八重奏 銀賞 竜美丘小学校

打楽器三重奏 銀賞 竜美丘小学校

金管打楽器八重奏 銀賞 六ツ美西部小学校

◆県中学生バスケットボール

新人大会

男子優勝 矢作北中学校

◆第二十七回中日オーブナイ

ンドア・アーチエリー大会

リカーブ部門キャデット女子

第二位 東海中三年 鈴木由利佳

リカーブ部門キャデット男子

第三位 東海中三年 田代佑治

◆第二十八回 県特別支援教

育振興大会

感謝状授与 恵田小学校

◆第二十回全国都道府県対抗

中学生バレーボール大会

出場選手(男子)

戸軽善則(矢作) 浜洲光幸(矢作)

位高佑多(矢作) 三浦翔護(矢作北)

石川和樹(矢作北) 金田洋光(矢作北)

内藤佳佑(南) 三浦和也(南)

若菜明仁(東海) 今泉祐介(額田)

出場選手(女子)

杉木亜里紗(北)

◆第四回ふるさと岡崎メディア

コンクール

●学校教育部門

最優秀賞 根石小教諭 竹内昭博

●児童生徒作品部門

最優秀賞 矢作中学校保健委員会

◆愛知県読書感想画コンクール

※◎は全国へ出品

優秀賞

◎美合小三年 原田野乃花

◎羽根小五年 鳥山 綾子

◎甲山中三年 稲垣 真凜

◎六名小一年 中川 由理

本宿小一年 成瀬 友瑛

広幡小三年 鈴木 大将

◎美北郡小五年 太田 彩友

◎矢作西小五年 鈴木 里紗

根石小六年 武笠 結天

甲山中一年 岩田 藍

甲山中三年 武笠 真結

◆第四十二回岡崎市読書感想文・

感想画コンクール

●市長賞(読書感想文)

藤川小一年 加納 央都

山中小四年 野口 拓海

竜海中三年 三浦由佳

●岡崎南ライオンズクラブ会長賞

美合小三年 原田野乃花

岩津小六年 亀岡 峰志

甲山中三年 武笠 真結

◆第五十七回岡崎市民駅伝競走大会

●男子の部(三〇・一km)

優勝 矢作中学校 A

二位 六ツ美中学校 A

三位 南中学校 A

四位 美川中学校 A

五位 葵中学校 A

六位 岩津中学校 A

●女子の部(一一・七km)

優勝 竜海中学校 A

二位 南中学校 A

三位 城北中学校 A

四位 竜南中学校 A

五位 矢作北中学校

六位 六ツ美中学校

●派遣研修員研究報告

平成十八年文部科学省教員研修「初等教育局教育課程課」

広幡小 山中一己

○研修の視点

①教育課程改訂にともなう、中央教育審議会の議論の方向性・新学習指導要領の重点ポイント

②今後の教育の方向性

「学校評価制度・教員評価制度・教育基本法など」

○研修①について

中教審・教育課程部会を中心に議論は、「活用」である。新学習指導要領は、知識をきちんと理解した上でどのように活用させるかをポイントに改訂が進められている。今後は、学習の基礎基本はもろろであるが、一段階レベルアップした教育課程を試行していくことになるであろう。

また、中教審は全国から各方面の有識者が集まり、建設的な審議が行われており、大変刺激を受けた。

○研修②について

文科省の考えを聞いたり、

様々な方面から出される貴重な意見や資料を整理したりすると、これからの学校教育の方向性が垣間見られた。

教育改革は、国家主導型や市場原理型より、現場主義型の方向に向かうべきであろう。ナショナルスタンダードから、ローカルオペティマム(地域の特徴・特性を生かす)を表現していくことが重要視される時代が訪れると思われる。

今回の研修では、文科省教育課程課をはじめとする多くの教科調査官に誠意あるご指導をいただいた。特に、今後の教育の進むべき方向性を数多く示唆していただき、本研修の価値を実感することができ、有意義な研修となった。



▲中教審：初等中等教育分科会教育課程部会

・カ
ツ
ト
城北中
鳥居是典

卒業写真 (明治40年)

写真提供：矢作中学校

この写真はちょうど百年前、矢作中学校の前身である、矢作町立江西高等学校の卒業写真である。二列目中央でひげを蓄えているのが校長先生。女子は最前列で正座をしているが、男子と比べその就学率が低いことが見て取れる。

矢作中学校の書庫には『写真帖』があり、その中には明治三十年代からの卒業写真が張られている。欧米では学校創立以来の卒業写真を廊下に掲示している学校が多いという。現在は卒業式で集合写真を撮ることはいくらか減ったが、式に臨む緊張と期待の混じった子供たちの表情は今も変わらない。



- * 「学び」で組織は成長する 吉田新一郎
光文社 ￥700
- * 丸山眞男 荻部 直
岩波書店 ￥740
- * 〈旭山動物園〉革命 小菅 正夫
角川書店 ￥724
- * 「学び合う学び」が生まれるとき
石井 順治
世織書房 ￥1400

- * 知的複眼思考法 荻谷 剛彦
講談社 ￥880

大学生対象の調査で「ベストティーチャーズ」に選ばれたという著者が、「自分の頭で考える力」をいかにして身につけるか伝授してくれる。読書、作文に加えて、問いの重要性を説く。RPDCAサイクルというR（実態把握）の部分では、いかに正確な情報をつかみ、自分なりの問題を立てるかが勝負の分かれ目となる。学校経営や学級経営などで、いかに問いを立てるか（何を課題とするか）という視点で読むと、教えられることは多い。

思い出が詰まった学び舎。互いに支え合
い、切磋琢磨したかけがえのない日々。郷
愁を胸に巣立っていく子供たちの瞳は、こ
れから始まる新たな世界への希望に満ちあ
ふれている。

それぞれの夢に向かい、心豊か
に、たくましく歩み続けてほしい。

試験を目前に控える受験生。志
望校への関門をパスするため、こ
れまで力を蓄えてきた。サクラサク。うれ
しい知らせに笑顔をはこぼせる子らを、
あちこちで見かけるようになるころ、ほこ
ろび始める桜が暖かな春の訪れをはっきり
と告げるだろう。春はもう目の前。

シ オ ス ア

愛知万博開幕から今月で二年。この冬の
異常な暖かさと思うと、環境万博と銘打っ
たその意義を再認識する。「我々は今、絶
滅の危機にあるのです」と、元米副大統領
領ゴア氏の出演した環境問題映画「不都合
な真実」は訴える。エコドライブ
など、身近なことから実践したい。

数十枚の調査用紙を基に、子供
たちの活躍の足跡をまとめる。そ
れでも紙面に載り切らないほどの栄光の記
録が並ぶ。春の野に咲くスマイレの花言葉は
「謙虚」。自分独りの力でなく、多くの人の
協力により勝ち取ったのだという謙虚な気
持ちは忘れず、一層の努力を期待したい。